

2025年2月1日 降誕節第6主日 礼拝次第

主日礼拝

前 奏 (黙 想)

招きの言葉 簡言2章7~8節(旧約992シ)

讃 美 歌 53(神のみ言葉は)

主の祈り <A>(讃美歌93-5)

詩 編 交 読 詩126編1~6節(交誦詩編147シ)

聖 書 マルコによる福音書4章1~9節(新約66シ)

祈 祷

讃 美 歌 195(まかれた種)

説 教 「蒔いている間に」田中雅弘牧師

讃 美 歌 412(昔、主イエスの)

信 仰 告 白 使徒信条<A>(讃美歌93-4)

献 金

讃 美 歌 88(こころに愛を)

派 遣 祝 福

後 奏 (黙 想)

報 告

※讃美歌は原則として全節を歌います。

聖 書 マルコによる福音書4章1~9節

「種を蒔く人」のたとえ

1 イエスは、再び湖のほとりで教え始められた。おびただしい群衆が、そばに集まって来た。そこで、イエスは舟に乗って腰を下ろし、湖の上におられたが、群衆は皆、湖畔にいた。2 イエスはたとえていろいろと教えられ、その中で次のように言われた。3「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出て行った。4 蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。5 ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。6 しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。7 ほかの種は茨の中に落ちた。すると茨が伸びて覆いふさいだので、実を結ばなかった。8 また、ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育って実を結び、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった。」9 そして、「聞く耳のある者は聞きなさい」と言われた。

主の祈り A(讃美歌21 93-5-A)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあがめさせたまえ。

み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を 我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。

我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ。

国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり。 アーメン。

讃美歌53番

- 1 神のみ言葉は この世界に
蒔かれて芽生える 種のようだ。
- 2 悪魔にみ言葉 奪われぬよう
心に根づかせ、育ててゆけ。
- 3 試練の茨の 阻むときも
負けずに育てよ、実る日まで。
- 4 み言葉は育ち、地に広がり、
平和とよろこび 満ちあふれる。

讃美歌195番

- 1 まかれた種 静かに落ち、
芽を吹き葉を出し、みのりを結ぶよ。
種が育つ 良い大地よ。
- 2 生命の種、主のみ言葉、
心に受け入れ、豊かに育てよう。
主よ、わたしを良い大地に。
- 3 石を除き 草を抜いて、
心を耕し、み言葉を受けよう。
われらは主の 良い大地よ。

讃美歌412番

- 1 昔主イエスの 蒔きたまいし、
いとも小さき いのちの種。
芽生え育ちて 地の果てまで、
その枝を張る 樹とはなりぬ。
- 2 歴史のながれ 旧きものを、
帰らぬ過去へ 押しやる間に、
主イエスの建てし 愛の国は、
民より民へ ひろがりゆく。
- 3 時代の風は 吹きたけりて、
思想の波は 騒ぎたてど、
すべてのものを 越えてすすむ
主イエスの国は 永久に栄えん。
- 4 父なる神よ、み名によりて
世界の民を ひとつなし、
地の果てまでも み国とする
約束を、いま果たしたまえ。

讃美歌88番

- 心に愛を 豊かにみたし
日ごとのわざに つかわしたまえ

